

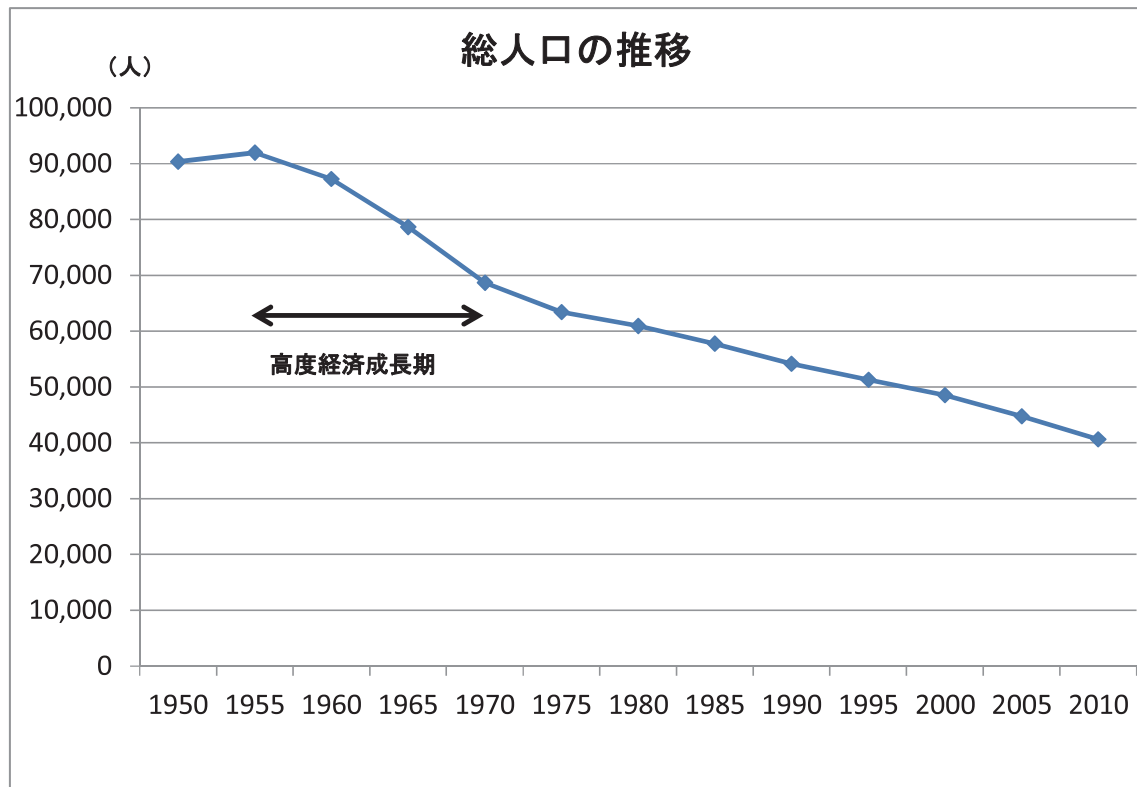
1.人口の現状分析

(1)人口動向分析

①総人口の推移

五島市では、1955年（S30年）から1970年（S45年）までの高度経済成長期に、人口が著しく減少しました。この原因は、戦後の日本を支えた重化学工業などの産業集積が進んだ地域（関東、関西、中京等）へ多くの若者が、集団就職などにより移住したためと考えられます。

【図表1 総人口の推移】



(単位：人)

区分	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010
総人口	90,369	91,973	87,232	78,642	68,649	63,410	60,947	57,736	54,143	51,295	48,533	44,765	40,622
現象人口		1,604	-4,741	-8,590	-9,993	-5,239	-2,463	-3,211	-3,593	-2,848	-2,762	-3,768	-4,143
増減率	—	1.8%	-5.2%	-9.8%	-12.7%	-7.6%	-3.9%	-5.3%	-6.2%	-5.3%	-5.4%	-7.8%	-9.3%

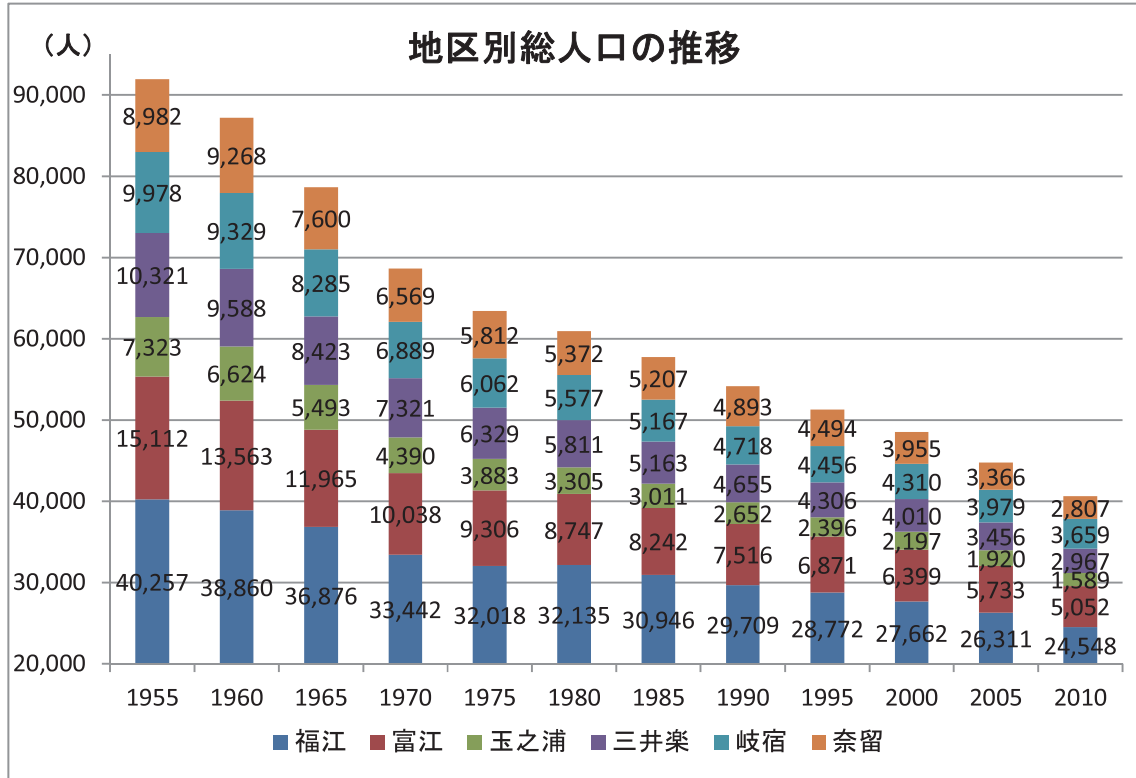
出典：国勢調査

※市町村合併以前は旧市町の人口の合計

②旧市町別総人口の推移

旧市町別で見ると、旧福江市以外の旧5町において減少率が高く、2010年（H22年）と1955年（S30年）を比べた人口減少率は、旧5町いずれも60%を超えています。

【図表2 旧市町別総人口の推移】



(単位：人)

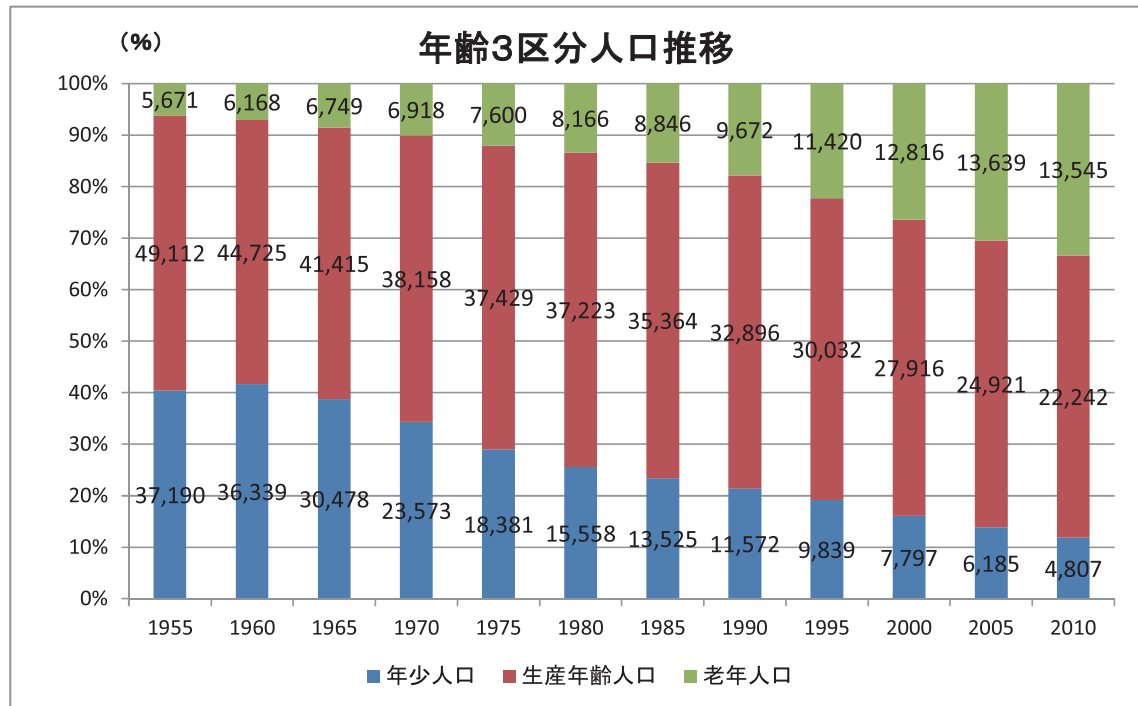
区分	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	1955⇒2010 減少率	
福江	人口	40,257	38,860	36,876	33,442	32,018	32,135	30,946	29,709	28,772	27,662	26,311	24,548	—
	増減率	—	-3.5%	-5.1%	-9.3%	-4.3%	0.4%	-3.7%	-4.0%	-3.2%	-3.9%	-4.9%	-6.7%	-39.0%
富江	人口	15,112	13,563	11,965	10,038	9,306	8,747	8,242	7,516	6,871	6,399	5,733	5,052	—
	増減率	—	-10.3%	-11.8%	-16.1%	-7.3%	-6.0%	-5.8%	-8.8%	-8.6%	-6.9%	-10.4%	-11.9%	-66.6%
玉之浦	人口	7,323	6,624	5,493	4,390	3,883	3,305	3,011	2,652	2,396	2,197	1,920	1,589	—
	増減率	—	-9.5%	-17.1%	-20.1%	-11.5%	-14.9%	-8.9%	-11.9%	-9.7%	-8.3%	-12.6%	-17.2%	-78.3%
三井楽	人口	10,321	9,588	8,423	7,321	6,329	5,811	5,163	4,655	4,306	4,010	3,456	2,967	—
	増減率	—	-7.1%	-12.2%	-13.1%	-13.6%	-8.2%	-11.2%	-9.8%	-7.5%	-6.9%	-13.8%	-14.1%	-71.3%
岐宿	人口	9,978	9,329	8,285	6,889	6,062	5,577	5,167	4,718	4,456	4,310	3,979	3,659	—
	増減率	—	-6.5%	-11.2%	-16.8%	-12.0%	-8.0%	-7.4%	-8.7%	-5.6%	-3.3%	-7.7%	-8.0%	-63.3%
奈留	人口	8,982	9,268	7,600	6,569	5,812	5,372	5,207	4,893	4,494	3,955	3,366	2,807	—
	増減率	—	3.2%	-18.0%	-13.6%	-11.5%	-7.6%	-3.1%	-6.0%	-8.2%	-12.0%	-14.9%	-16.6%	-68.7%
合計	人口	91,973	87,232	78,642	68,649	63,410	60,947	57,736	54,143	51,295	48,533	44,765	40,622	—
	増減率	—	-5.2%	-9.8%	-12.7%	-7.6%	-3.9%	-5.3%	-6.2%	-5.3%	-5.4%	-7.8%	-9.3%	-55.8%

出典：国勢調査

③年齢3区分別人口の推移

五島市の年齢3区分別人口の推移をみると、生産年齢人口と年少人口は1955年（S30年）をピークに減少に転じており、2010年（H22年）までの55年間で年少人口は87%、生産年齢人口は55%減少しています。一方、老年人口は増加を続け、1995年（H7年）に年少人口を逆転しており、1955年（S30年）と2010年（H22年）を比較すると2.4倍に増加しています。

【図表3 年齢3区分別人口の推移】

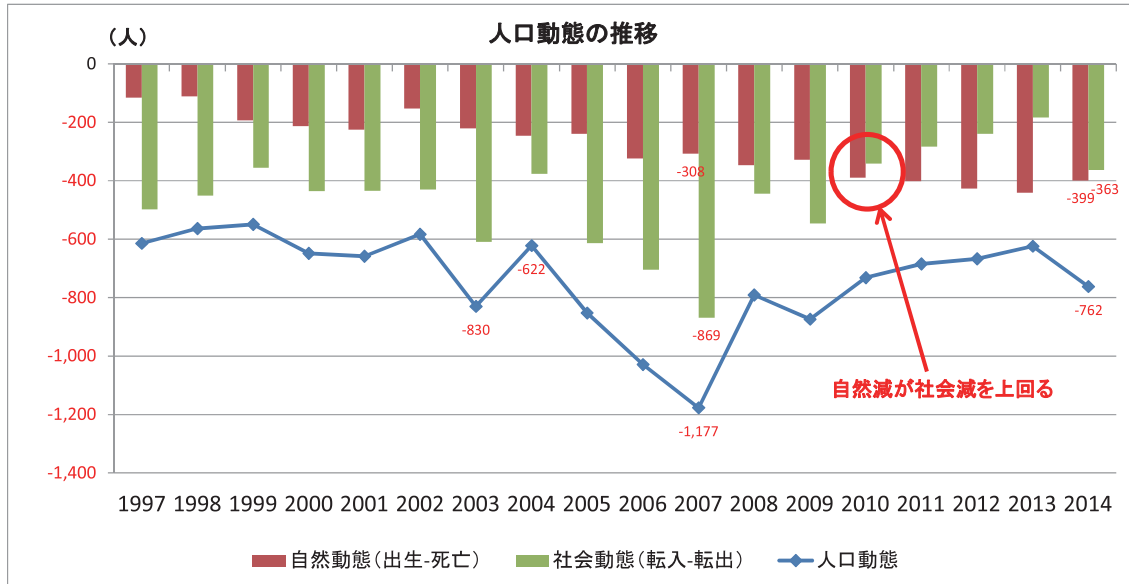


出典：国勢調査

④自然増減・社会増減の推移

五島市の人口動態は、1955年（S30年）をピークに人口減少に転じましたが、その原因は、転出数が転入数を上回る転出超過（社会減）によるものが大きく2009年（H21年）までその傾向が続いています。一方、少子高齢化の進行により2010年（H22年）から死亡数が出生数を上回る自然減が、社会減を上回るようになっていきます。

【図表4 自然増減・社会増減の推移】

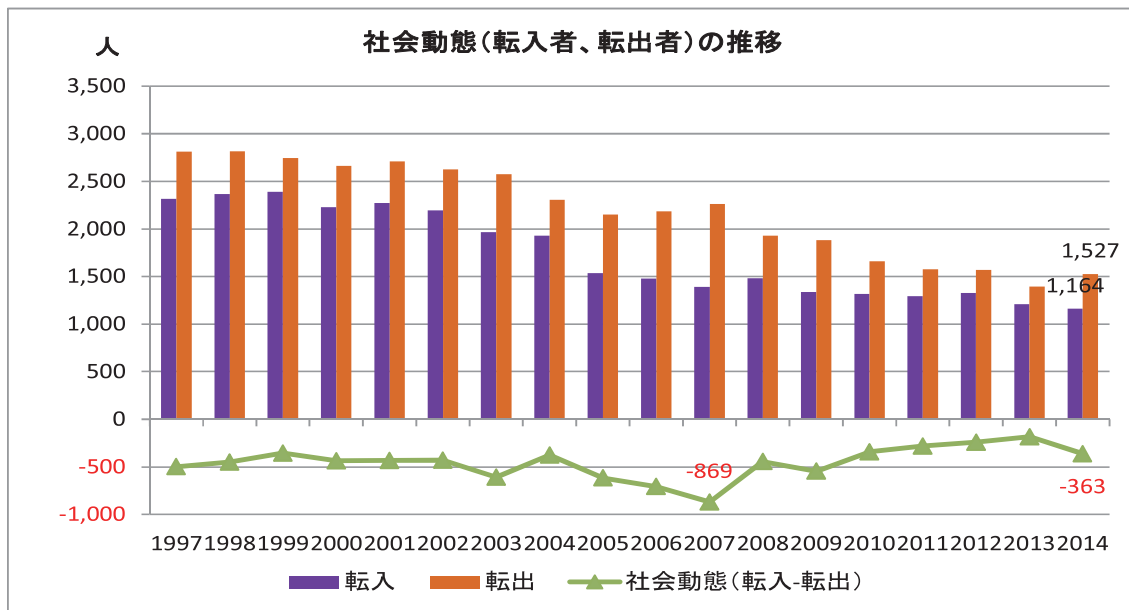


出典：長崎県異動人口調査

⑤転入・転出者の推移

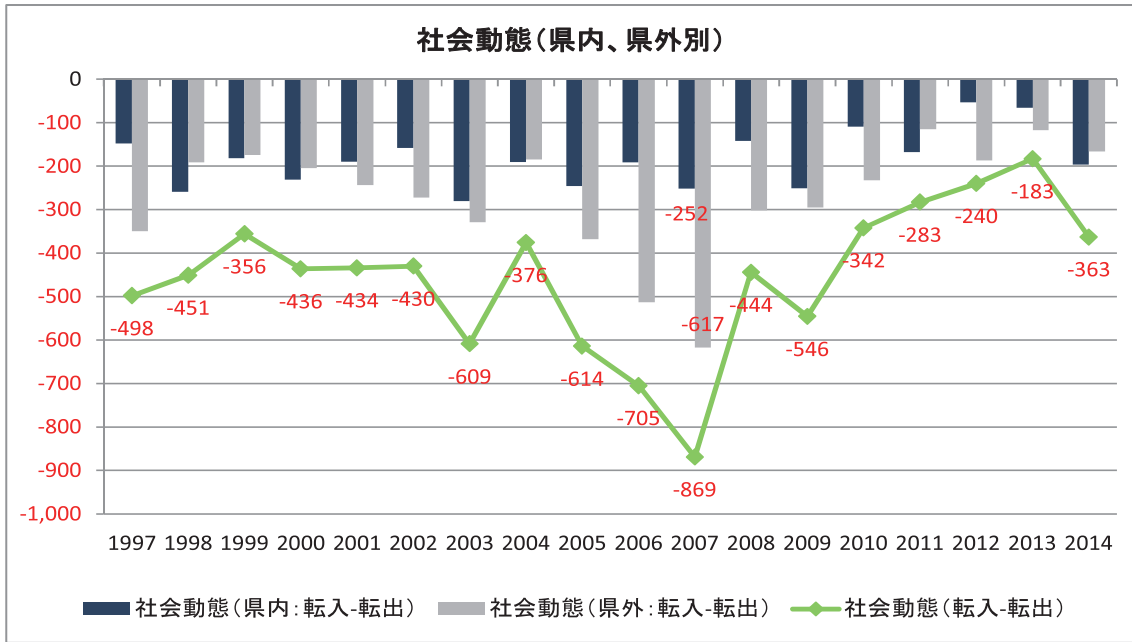
五島市では毎年、転出数が転入数を上回る転出超過が続いており、2007年（H19年）には、900人弱の転出超過となっています。県内、県外別の転入、転出状況を比べると県外への転出超過が多い傾向にあります。

【図表5 転入者・転出者の推移】



出典：長崎県異動人口調査

【図表 6 転入者・転出者の推移（県内、県外別）】



出典：長崎県異動人口調査

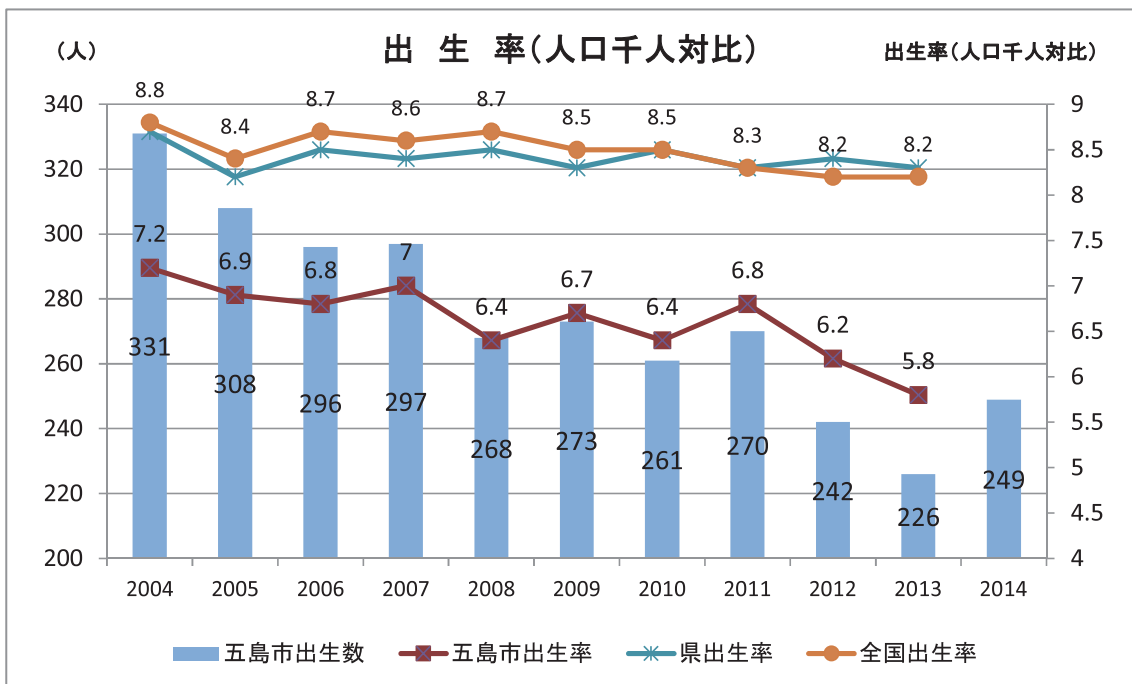
(2) 人口移動分析

①自然減の要因

(出生率)

五島市の出生数は、2006年（H18年）に300人を割り、現在まで減少傾向にあります。また、人口千人当たりの出生数（出生率（人口千人対比））をみると、2004年（H16年）から2013年（H25年）の間で△1.4減少し、全国平均の△0.6に比べ、大きく減少している状況にあります。

【図表 7 出生率（人口千対）】

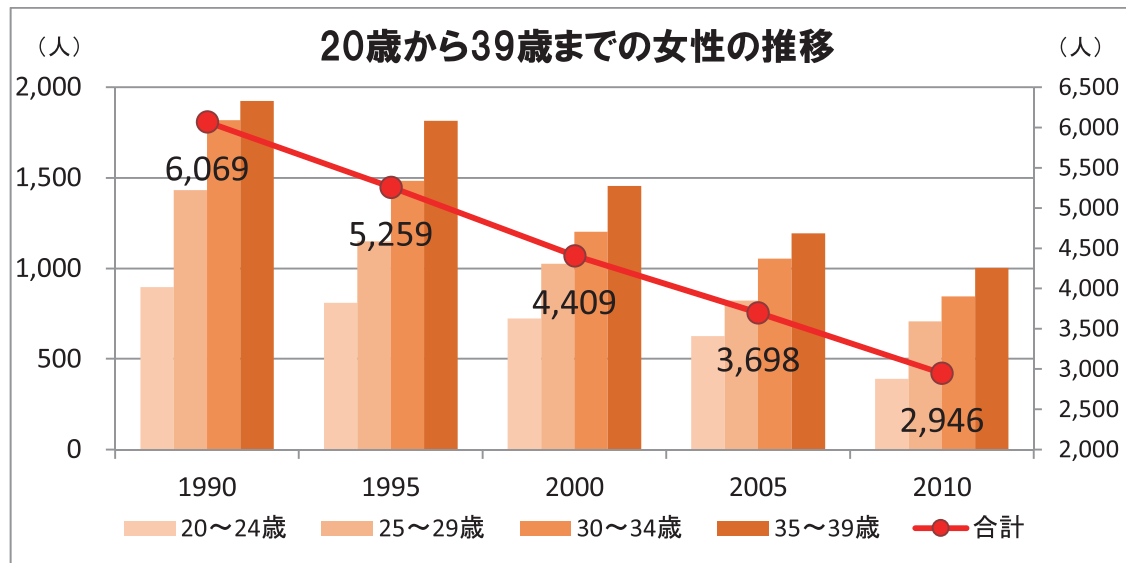


出典：厚生労働省「人口動態統計」、長崎県福祉保健部「衛生統計年報（人口動態編）」

(20歳から39歳までの女性の推移)

五島市の20歳から39歳までの女性の数は、1990年(H2年)から2010年(H22年)の20年間で半減しています。

【図表8 20歳から39歳までの女性の推移】

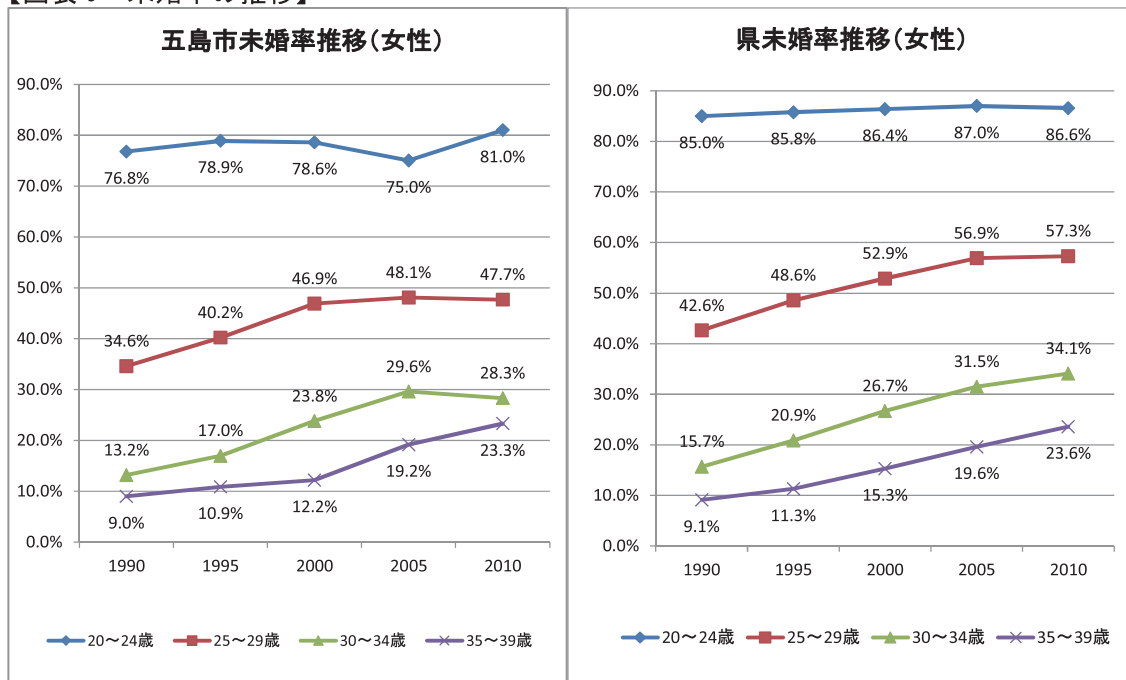


出典：国勢調査

(未婚率の推移)

五島市の女性の20歳以上の未婚率は、県との比較では、20歳から39歳までの全ての年代において低い数値となっていますが、いずれの年代においても1990年(H2年)と比べ増加しています。

【図表9 未婚率の推移】

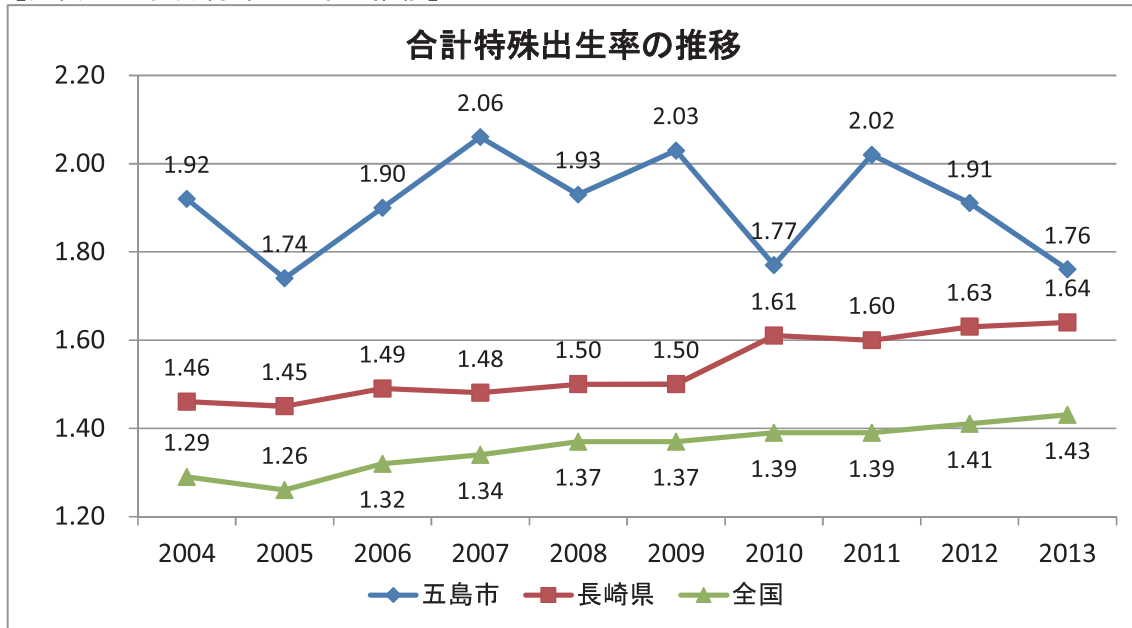


出典：国勢調査

(合計特殊出生率の推移)

五島市の20歳から39歳までの女性の数は減少を続けていますが、合計特殊出生率については、全国、長崎県よりも高い数値を維持しています。

【図表 10 合計特殊出生率の推移】

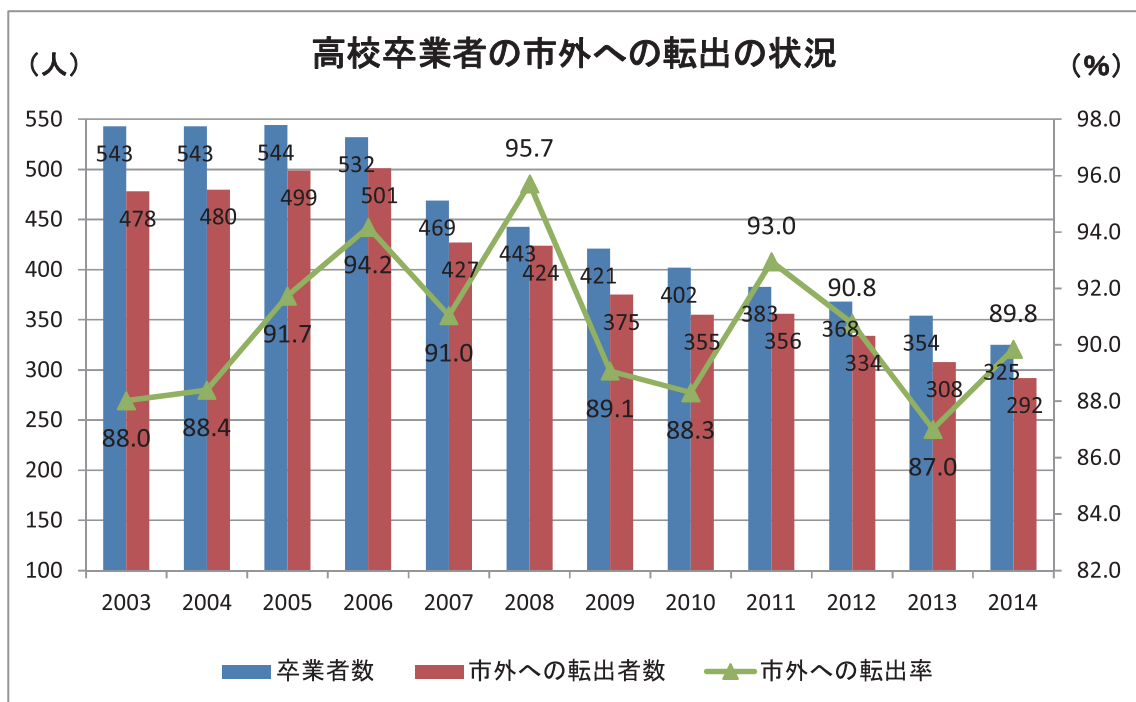


出典：厚生労働省「人口動態統計」、長崎県福祉保健部「衛生統計年報(人口動態編)」

②社会減の要因

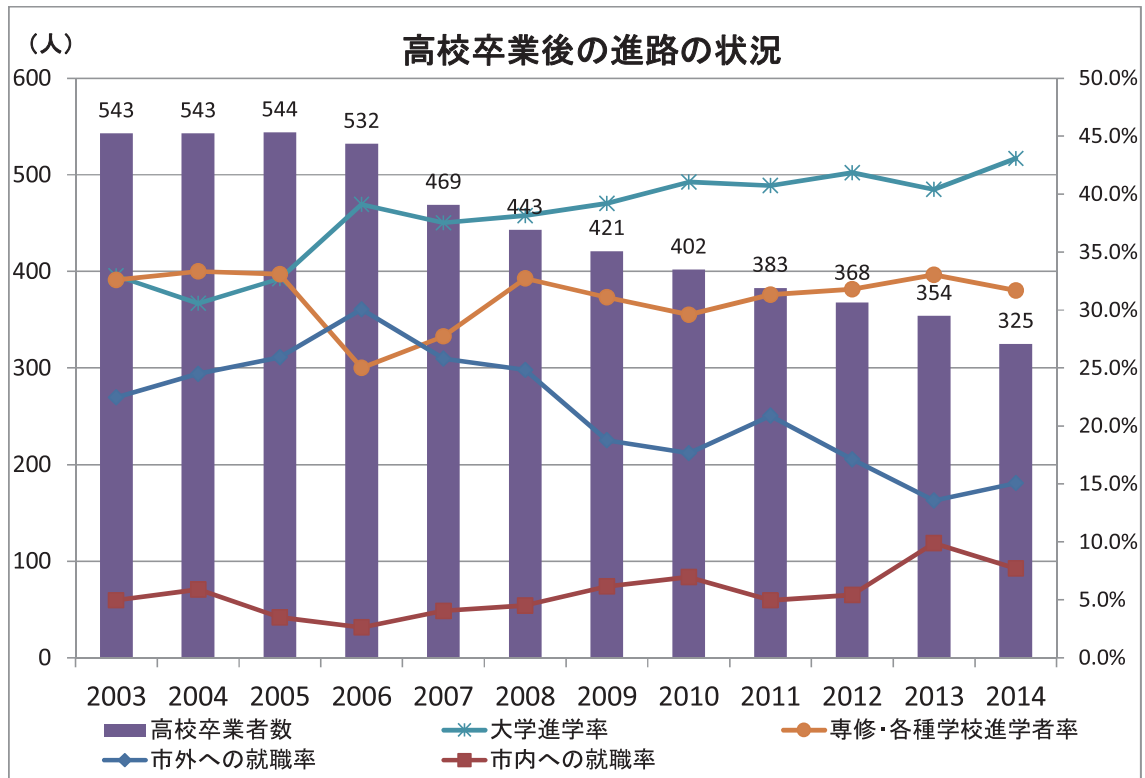
五島市の高校卒業者は2006年（H18年）以降減少傾向にあります。市外への転出率は9割前後で推移しており、近年、大学、専修・各種専門学校の進学者の割合が高い状況にあります。

【図表 11 高校卒業者の市外への転出の状況】



出典：住民基本台帳

【図表 12 高校卒業後の進路の状況】



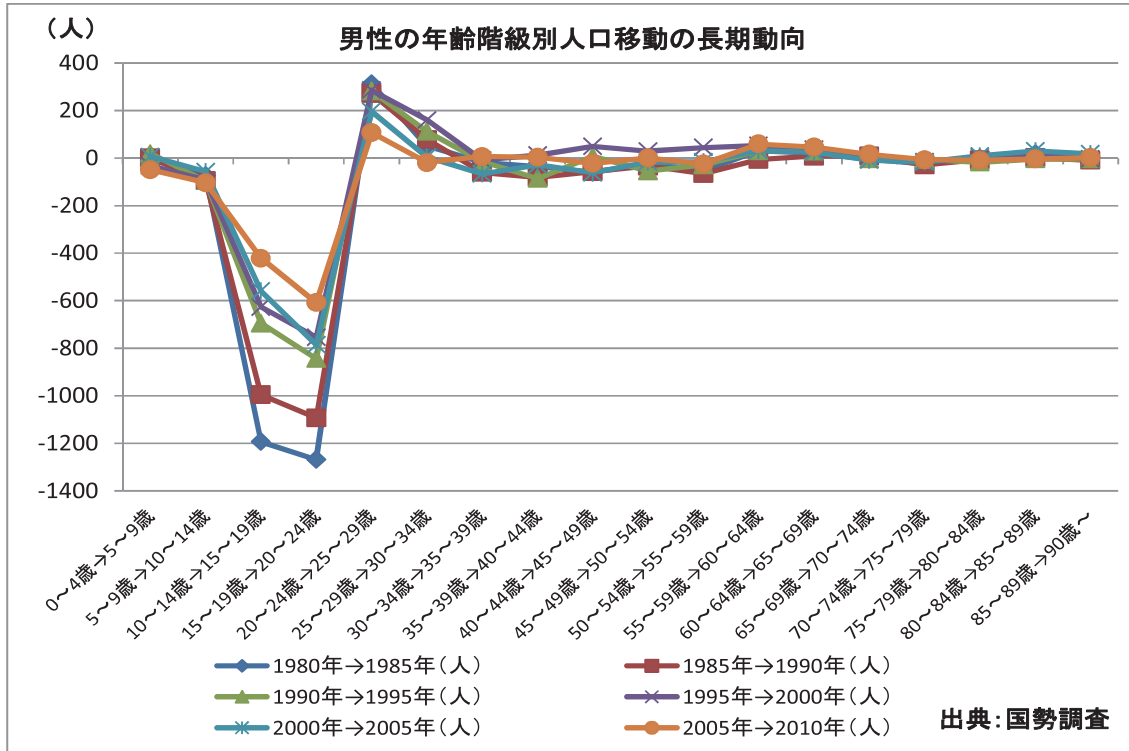
出典：長崎県五島振興局「五島要覧」

③年齢別人口移動の状況・長期的動向（男女別）

1980年（S55年）以降の5歳階級別人口移動は男女とも10～14歳から15～19歳、15～19歳から20～24歳になるときに大幅な転出超過となっており、また、20～24歳から25～29歳になるときに転入超過となっており、

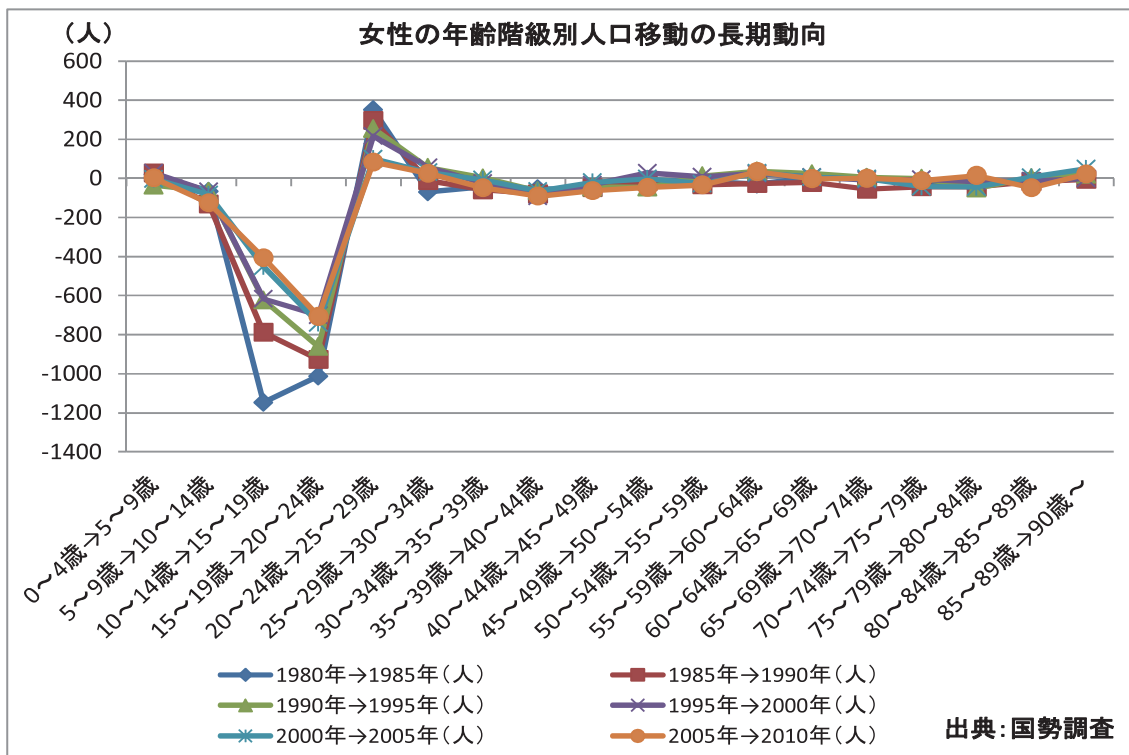
年々、対象人口の減少に伴い減少数は低下してきていますが、同じような傾向にあります。

【図表 13 男性の年齢階級別人口移動の状況・長期的動向】



（女性の年齢階級別人口移動の状況・長期的動向）

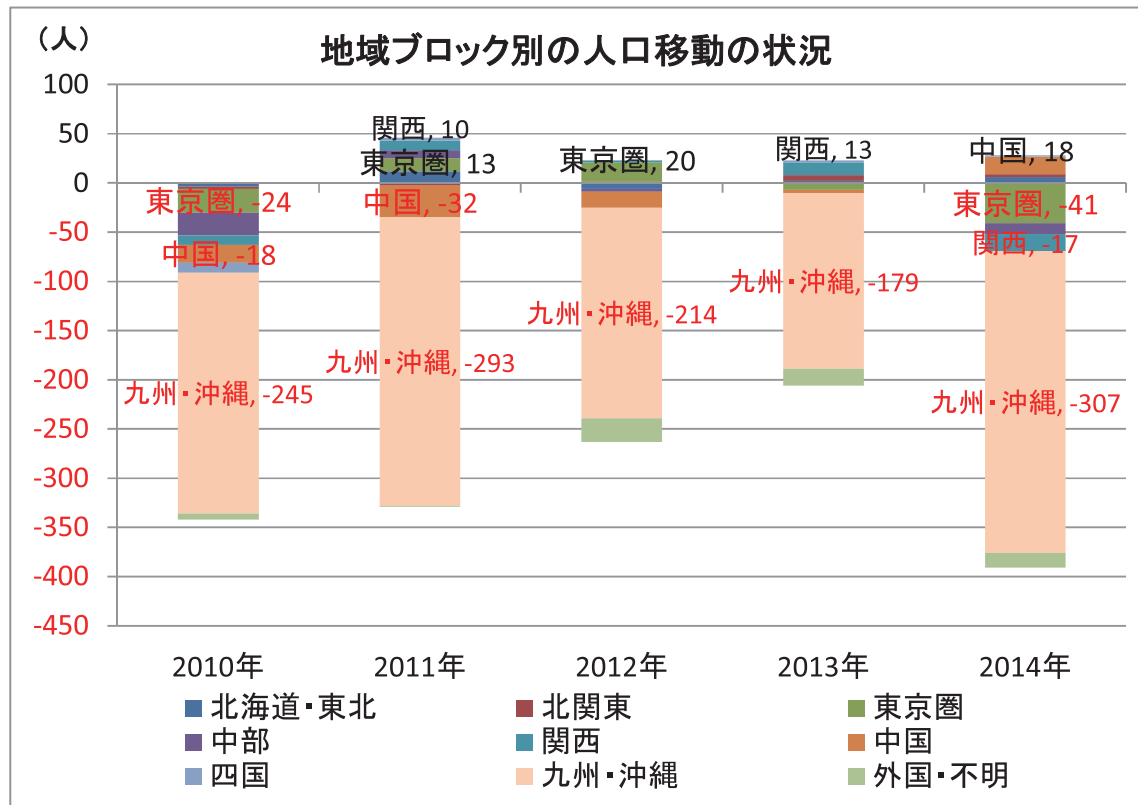
【図表 14 女性の年齢階級別人口移動の状況・長期的動向】



④人口移動の最近の状況（自治体間移動の状況）

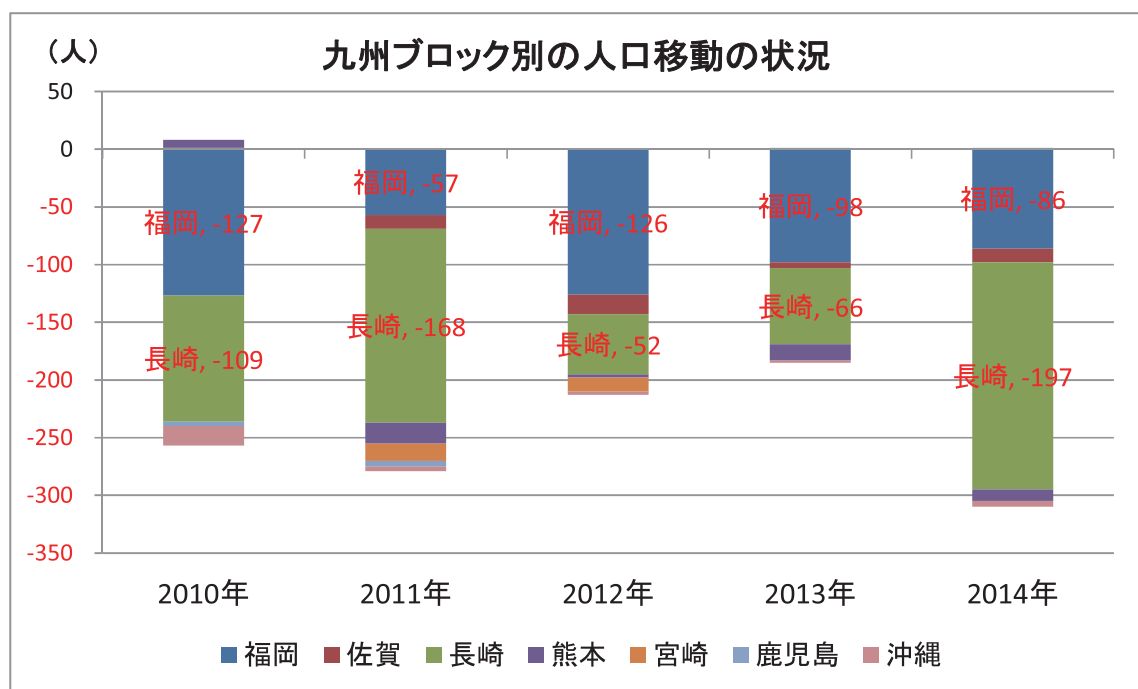
2010年（H22年）からの2014年（H26年）における転入出先（地域ブロック別）の状況は、大半が九州・沖縄県であり、転出先の内訳は、福岡県、長崎県内への転出が多く、県内では長崎市が最も多くなっています。

【図表 15 地域ブロック別の人口移動の状況】



出典：住民基本台帳

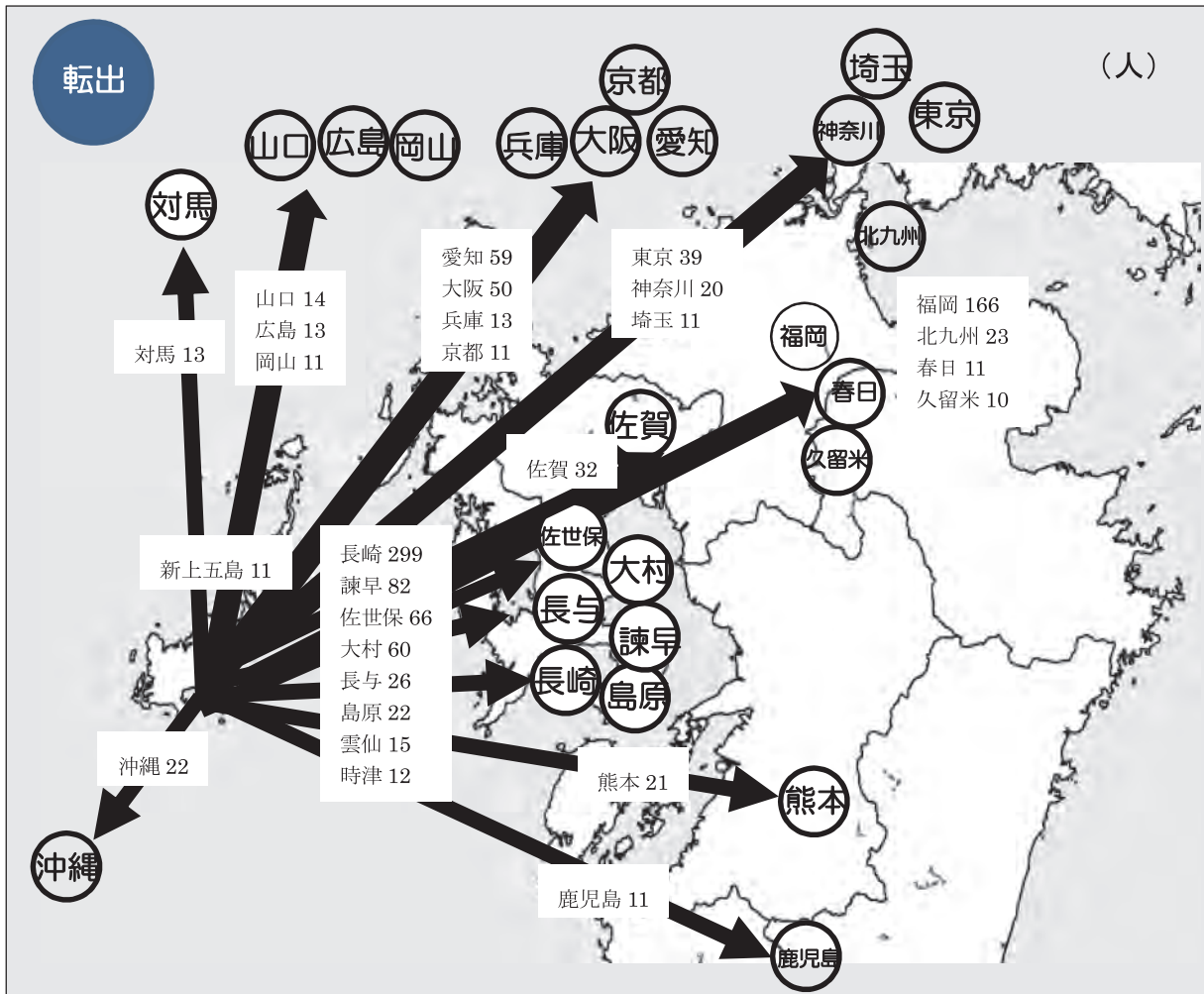
【図表 16 九州・沖縄県別の人口移動の状況】



出典：住民基本台帳

(参考：2013年の転出状況) ※表示は10人以上の自治体

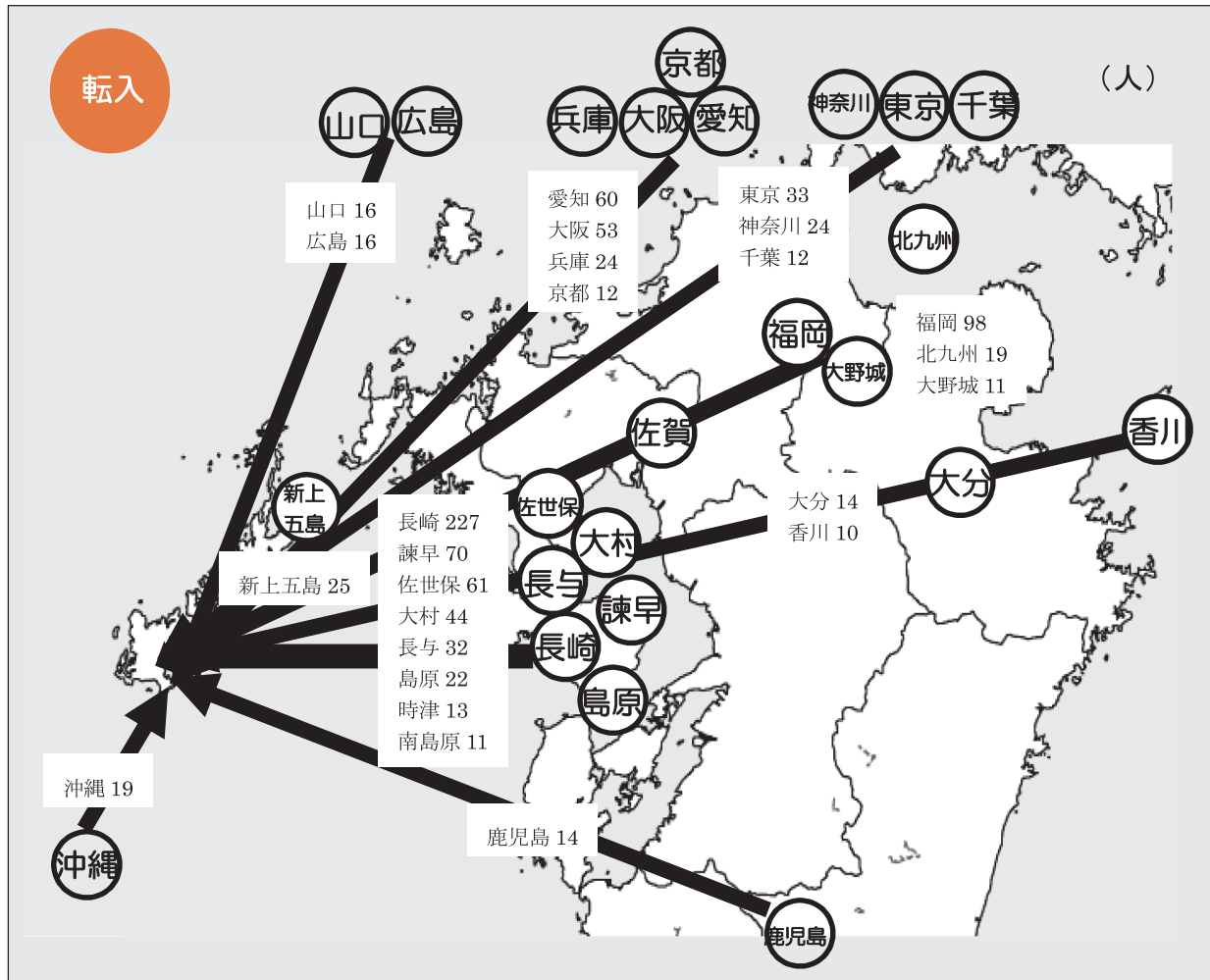
【図表 17 2013年（H25年）の転出先（全国1,335人）】



出典：住民基本台帳

(参考：2013年の転入状況) ※表示は10人以上の自治体

【図表 18 2013年（H25年）の転入元（全国1,153人）】



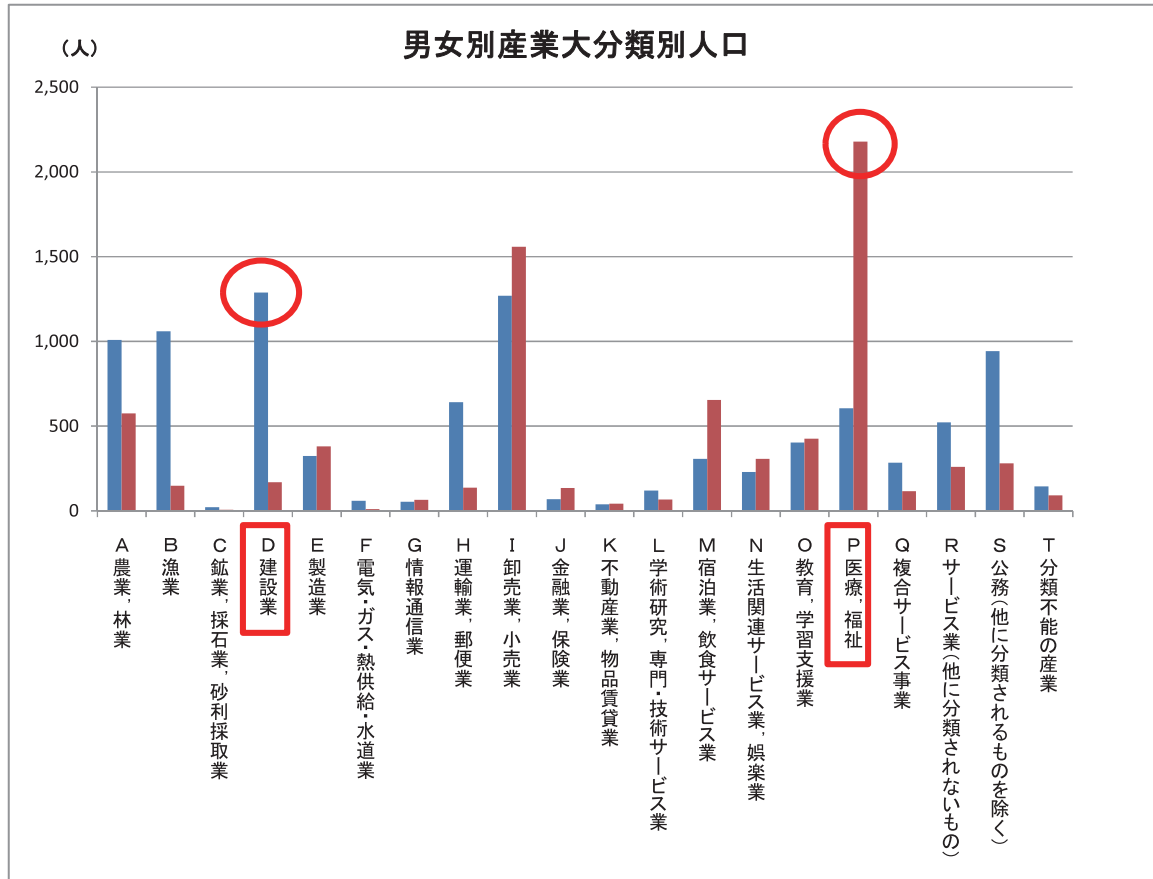
出典：住民基本台帳

(3) 雇用や就労等に関する分析

①産業別就業者数

五島市の産業別人口は、男性が建設業、卸売業・小売業、漁業、農業の順に就業者が多く、女性は医療・福祉、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービスの順に多くなっています。

【図表 19 男女別産業大分類別人口】



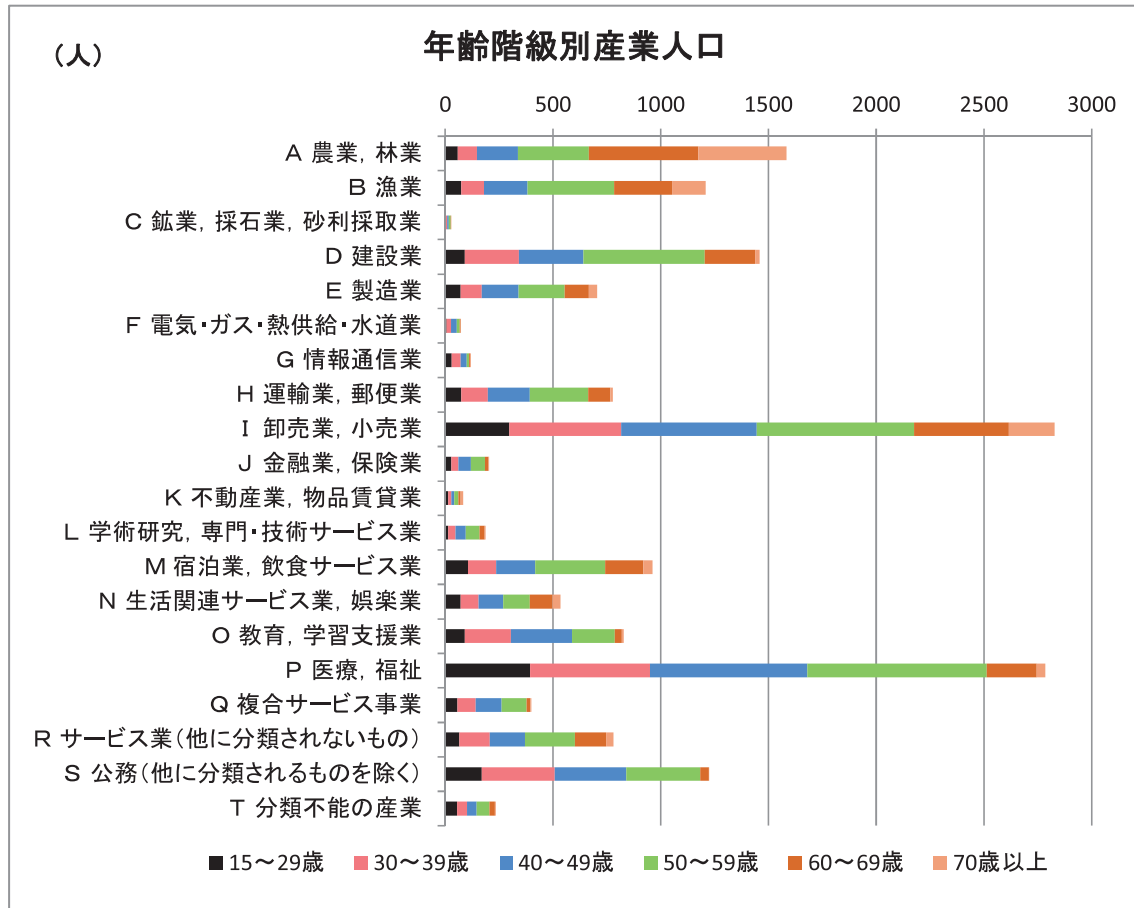
出典：平成 22 年国勢調査

②年齢階級別産業人口

五島市の基幹産業である農業、林業、漁業は、約7～8割が50歳以上です。

15～29歳、30～39歳の割合が高い産業は、卸売業・小売業、医療・福祉であり全体の約3割を占めています。

【図表 20 年齢階級別産業人口】



出典：平成 22 年国勢調査